

2021/12/5-2

(うときゅういっきの「これから」同調圧力 発見のきっかけ)

それが同調圧力を感じるきっかけになったのかどうかは判然としませんが酷く記憶に残っている出来事が二つありました。

自分の店は外国人従業員がパートも入れて 4 人働いております。ネパール人が 3 人。パキスタン人が 1 人。日本人は自分だけです。一時インド人もおりました。

そうした中でのホンの些細な出来事でしたが「んっ？」と思ったのはお札の入れ方でした。当店では毎朝食材等の購入のために千円札を 3 枚、ドロップの空き缶に入れておき、外国人従業員がその中から必要なお金を引き出して買い物に行きます。

日本人の自分がお札を入れる時には 3 枚、耳と方向を揃えてキッチンと畳で入れておくのですが、買い物から戻ってきた後のお札はいつもグチャグチャに丸められた形になって突っ込まれておりました。

国や年齢、性別、学歴に拘わらずに、です。

「何できちんと入れひんのや？何度ゆうても分からん奴らや」

そして今一つの記憶は企業の度重なる不祥事の謝罪会見の様子でした。

自分の元いた会社が社会的に大きな不祥事を起こしていたので、無意識にも不祥事の謝罪会見が気になっていたのでしょう。

それで何に驚いたのかと申しますと

「謝罪会見の最後にするお辞儀」

に対してでした。

業種、規模、老舗か新興かの歴史に拘わらずお辞儀の仕方が全く同じだった事に、です。

事前に打ち合わせた訳でもなかろうに、時間軸、空間軸を異にする会場で土下座、号泣ゼロの中、例外なく深々と頭を下げるその「お辞儀の角度」迄一緒に見えたのです。

「ほんまかいな。おちょくっとな、ちゃうか？ここまでくると何や気味悪いわ」

今思うと上述二駒の映像が頭の中で好対照を描き出した様です。

それで翻って当店のマネーボックスの映像から

「世界中何処でもお札という物は綺麗に畳んでおくのが共通常識やと思うとったが、そうではないのかもしいへんで」

と。

そして今度は後者の謝罪会見の映像から

「わからんちんの外国人相手に、兎に角現場を動かそう思うたら言葉の通じひん相手がわかる様に大声を出す、オーバーアクションをする、表情を豊かにせざるを得なんだが、周りからは「妙な奴ちゃ」扱いばかり受けてきよったな、そういえば」

と言う記憶がよみがえって参りました。

そうして此れ等の記憶が巡り巡って最後に

「ひょっとしたら是迄の感覚と違って我が国は逆に世界の中で異端。その整然たる我が国

の中で、銅鑼声を張り上げている自分は是又その逆の異端という事かいな？」

と言う「裏の裏は表」みたいなそれこそ妙な発見でした。

と同時に、それは是まで自分が持っていた常識が大きく揺らいで寄る辺ない不安界に突き落とされた瞬間でもありました。

「ひょっとしたら自分は何やら飛んでもなあ大きかあ勘違いばあしよったまんま生きとんねやあもしいひんで。そげんこつばあありよったら、今までの全部パーやで。ヤバかあ、どねえしょ？@@;」